

クルリンと ほしぞらさんぽ 10月号



中秋の名月、見ましたか

9月10日、11日、雲は流れていましたが幸いなことにきれいなお月様を見ることができましたね。少し気温が下がってきました。空が暗い山の中の場所まで出かけると20℃を切るぐらいになっています。いよいよ秋・冬のほしぞらさんぽシーズンですよ。ワクワクしますね。

オリオン座流星群 10月21日の夜

10月21日の夜から22日の明け方にかけて、オリオン座流星群の流れ星がたくさん見られると予報されています。オリオン座流星群はこの夜だけではなくて、10月10日ごろから月末まで1時間に10個ぐらいですが、バラバラと流れてくれます。この期間には晴れたらほしぞらさんぽしましょう。

オリオン座流星群は、あの有名なハレー彗星の母体です。ハレー彗星が太陽に近づいた時に通った後にたくさんの細かいチリを残していきました。そのチリの中に地球がつつ込むと流れ星が見られるのです。今年のオリオン座流星群の極大日は月明かりがないので観察には最適です。

10月9日には、10月りゅう座流星群があるけれど、満月に近いので空が明るく、たくさん見られるかどうかは分かりません。

秋の星座

まず星座早見盤で秋の星座の予習をしましょう。南を向いて星座早見盤を頭の上に持ちます。右手側は「西」になっていることを確認しましょう。星座早見盤に書いてある方位も、右側が西になっていますよ。

西の空半分はまだ見なれた夏の星空で、明るい1等星が3つありますね。おなじみの「夏の大三角」を形作っていること座のベガ、わし座のアルタイル、白鳥座のデネブです。この3つの星はずいぶん長い期間見えているんですね。

南を向くと左手（東）側は秋の星空です。秋の星座といえばペガサス座とアンドロメダ座、この名前を聞いたことがありますか。星座早見盤をよ

く見ると、東側には1等星が一つしかありませんよ。秋の星空には明るい星が少ないのですね。東

側の秋の空の1等星は

みなみのうお座のフォーマルファウトです。低いので赤っぽくて、さほど明るく見えませんが、実は大変に明るい星です。

秋の空で見つけやすいのがペガサスの四辺形です。ペガサス座は

羽が生えている「天馬てんま」の姿です。

ペガサスの四辺形が見つければ、その東側につながっているアンドロメダ座も見つかりますよ。

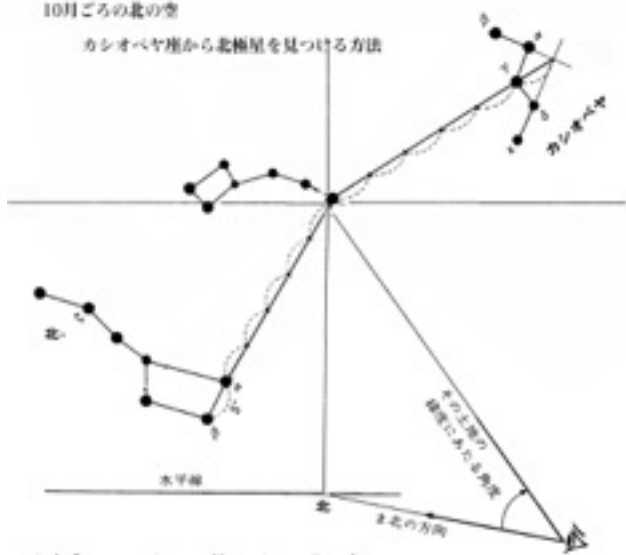
みずがめ座ややぎ座も秋の星座として知られている名前ですが、どちらも星座の中に明るい星がないので伊勢原の空では見つけにくいでしょう。

北を教えてくれる星座 カシオペヤ座

北斗七星から北極星を見つける方法を前に教えました。北斗七星はこれからの半年は見えなくなってしまうので、そこでカシオペヤ座を使って北極星を探します。ほしぞらさんぽで星座を楽しむには、いつでも方角が分かるということが大切ですね。もちろん方位磁石やスマホの中の磁石を見ればいいのですが、空を見上げるたびに方位磁石にたよるのではめんどろですよね。

次ページの図は10月ごろに北を向いた時に見えるカシオペヤ座の姿です。この図の中の短い線や点線には大事な意味があります。よく見て数えたりして、北極星の探し方が説明できるか試してみましょう。頭の使いようですよ。





木星と土星

南東に木星がかがやいています。星座早見盤にない明るい星、それが木星です。10月には-2.9等ですから、どの星よりも明るく見えます。8倍ぐらいの双眼鏡があると木星の4つの衛星が見えるかもしれませんよ。

木星よりこぶし4つ分ぐらい西に、やはり星座早見盤にはない明るい星が見えています。1等星ぐらいの明るさです。10月には0.5等の明るさになっているこの星は土星です。有名な土星の環は最低でも倍率が50倍ぐらいないと見えません。

